



敵討東錦繪

大尾

三十九

~ 13
4055
15



門 18
號 4055
卷 15



一 〇二 〇三

〇四 〇五

〇六 〇七

〇八 〇九

行 押 印

〇一〇 〇一一

〇一二 〇一三

一之谷首實

石田丹造

浮南

女正の孫 陣屋 弟名 石田



仇討天貞東綿繪實記卷之九

目録

一 〇一 〇二 〇三 〇四 〇五 〇六 〇七 〇八 〇九 〇一〇 〇一一 〇一二 〇一三

一 倉光小次郎生降云狼九を捕る事

赤松清盛の事

并 少次郎常列を征伐の事



大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

中々とお奈しと常列先戸といふ
西より北へははきこしの河のりなま(ハ
かま)かろしこ(み)げりし(み)けぬも氷戸
さぬら(北)河(北)の(北)波(北)道(北)ま(北)む(北)し(北)る
あよりつてるが居もたぬつるなす
ひとまが(北)は(北)る(北)こと(北)か(北)ん(北)と(北)石(北)動(北)院(北)
とし(北)ま(北)の(北)言(北)守(北)み(北)ぬ(北)て(北)天(北)宮(北)と(北)し(北)ま(北)
笑(北)摺(北)皮(北)電(北)と(北)その(北)く(北)千(北)々(北)守(北)系(北)詣(北)

と秘(北)し(北)ら(北)実(北)み(北)ま(北)言(北)宗(北)の(北)法(北)花(北)寺(北)
千(北)々(北)守(北)と(北)ふ(北)こ(北)の(北)り(北)け(北)る(北)る(北)こ(北)と(北)ら(北)ら(北)ら(北)
を(北)し(北)は(北)ひ(北)で(北)と(北)も(北)つ(北)て(北)身(北)延(北)山(北)
系(北)詣(北)は(北)ま(北)し(北)と(北)こ(北)ろ(北)ろ(北)け(北)け(北)藤(北)波(北)の
あ(北)の(北)こ(北)ろ(北)か(北)り(北)し(北)や(北)ぬ(北)ら(北)津(北)の(北)山(北)を
登(北)て(北)一(北)日(北)廿(北)八(北)九(北)里(北)の(北)道(北)を(北)河(北)由(北)三(北)甲(北)
列(北)御(北)道(北)み(北)あ(北)て(北)礼(北)し(北)ら(北)ら(北)ら(北)ら(北)ら(北)
より(北)その(北)用(北)ま(北)る(北)ま(北)き(北)は(北)し(北)と(北)る(北)れ(北)バ

ろ用ありて人家の門まで一紙
半紙とてひてよま〜その日とて
ご〜りらあまよ〜してこの
よ山あま〜でる祀日蓮上人
の由紀廿七西山へ坐り名西四
治と〜るの早り何とぞ佐別吾光
寺へも系ひれせむやとたのひな道
ぞも道申飢渴あよびらま〜バ

ちやと〜も夏の末〜
江戸をお〜ハ三月廿の〜るれが
そ〜り〜はみめてめ仕〜とせ〜い
めらんものとおのひも〜まが
江戸へあてやうはとらあひり
何〜る〜めは〜るバ十あや
二十あ〜い海の中〜る〜
その念ま〜りて吾光寺より

此の
大津路めくり伊勢(糸訪)
大和より一京大坂ともんね
せむやと浪りなきこのぞこをた
ひひきてぞ宅りりりりりり
あま復九生生の浄云百補ら
白杖あまぶ危堂の身一服
震るあまぶひまをさる春を
しひりげればはたろそく
中々春

本町へ名手出まきらるるやあ奈
しとゆきごとく知まぬそのあが
何ごとくともあれざるあま
江戸町へいれりつてこま
子福井町紅葉安ま街西川
る場後池まを街一もあづね
まきすしねあせむれらるゆこの
のあまへは申あぬもせん

多とるり〜〜の^ゆあも^あ知ら^らばに
より一せん^となり^が〜^いいんと
してたがひ^のと^ん合^せり^ら母^毒
を^かる^りかく^さりて^乳を^食
のて^らる^れば^らき^れそ^てる^るぞ^り
ゆ^ての^のと^も〜^たち^となり^ら
も^毒を^かる^り安^きを^かる^りて^きの^とも^や
〜^一せん^にも^んと^はら^と安^きを^か

毒^をか^るり^て早^こと^いと^知り^ら
事^をれ^ばだ^る〜^とは^ら
〜^とも^なら^ず〜^とも^なら^ず
これ^を毒^をか^るり^て〜^とも^なら^ず
ま^つ〜^とも^なら^ず〜^とも^なら^ず
は^ら〜^とも^なら^ず〜^とも^なら^ず
〜^とも^なら^ず〜^とも^なら^ず
と^も〜^とも^なら^ず〜^とも^なら^ず

とる一は又るこんでを一りなる
と安き世の何とせむそのひ大を
ちろげてもびかまは毒をばい
かあるとどやねのひらんはあ母は
み一口呆きぬきううつて安き
かこらんより乳の下まであまは
かりめ切れはささるがの安き世
うんとりめてたをささるそのも

一毒身又人の元中十身より
左右より一毒身よりうちかき
か毒をばきしゆをやこびい
右へをぬたりとく蝶の牡母
くるよがこりひのいまは口を
りて十身をさるおのけくはま
一の透の何ぶがあげせん
うはさるる如き何とよりある

白の宛中十余人の事いふの
よかのり知母あつては母
毒を指さ人とたりし
うらめんことさしおれ
これと事まのせぐ
あへびまことみ
あひあひりしてぞ
うらうらむけ毒を
いふ

和谷長者町のうぬれを親
たむよ高賣せしもの
のこゆより小角口怪業
のこりそびらる父母
伯父や一それ店
いふいづらよの
とありりて角か
いづらざらよの

もろとも牢門へ入ら奉敷なるれ
ども白き母登はらうことゆへに政屋
のゆゑ悲しものつてはるる毒を毒ぢ
くお牢よあよび雷活を毒ぢが子え
とるりてむくろをくのこつていこ
あやま來町に借宅して妻女を
ちてくくくくくあどのののさりけ
ひろとむ毒を毒仇名のこりゆぐ白
めぬはらうはらうを毒を毒とて奉敷の
毒を毒とをどめとせらうくわくの
いさみのものなるかゆへにせらうの
はらうのたぐはむげんとのこせら
とせらうの毒を毒とせらうの毒を
居るまに中仙居るまに
はらう十六人のくくハ後地はらう

おとさきもきそくまきくしあしりらるも春を街
七今粒の合ももまぶし〜そのと
澄旭はまき書とよまだれ〜京家の
まき切か路ひひまうせてそらふらま
ははひみらあそ〜ちぎたをされ
大他〜まう〜まらびらるみ大せん
そりかまをりてしげぞり〜る手
小もみし海〜り大目電めうち

入れ江戸〜してぞんをまひらり〜
からみ紅書安き書ハもびりの目の
う〜り乳の下まで切さげられ
られどもさひひんれは海を巻きて石
出氏の合懐のめ業もて百日の
快楽もたのむき〜り

倉光小次郎生の降云狼九を昔
ひら〜る春まはら仕を事

殿へうのどこれらうま内格山殿に
あせりうハはゆ仕意のたのむき、伊奈
傳あぢへり伊せそ方そんやうり
れそり回紀とゆくこめ中付屋き
とれおせおされれバカしと有りなり
ゆとて伊奈傳あぢ殿へりきん四相
淡ゆつてそを著る森を捨おめ三九を捨
降云三人ハ率をみゆつて討首あ

せ傳ふまはまはむび倉光少元帝
ゆゆ傳お跡ゆうハそのあうぎ衣の
このそらハゆあうびとして伊奈傳
前書方ハ山川海一わあひるりハ
る立而彦列は方よたはて傳あぢ
さし書とらうけむきよのりりとれよ
せ海されれハは帝を捨る境方のみ
よりそむはとま有りがこま仕合

もきんぐなりいしとら櫻と中河ザ花
川産くまゆり馬道田むらや幸助
堀川放釣兄弟本橋所荒又市
一も首尾よくつれはさこころよと
中もつろくをく花川産と志まひ
左ふ岩別へおませんと用意より
くうらぬ子放釣四市橋後の市
を橋荒又市一後橋三入同屋して

見たくり見ささけのくあます何系
備あま板山役あまていあうるあはし
あゆらや山道もこゆもとるあしと
て道中仕くくしてあかりらうか
四市を橋ら後大ひみ悦ひおまの
用意もそのひんれは田村の幸助
もさふひひ左ふの事あまバこれと
一同して江戸表と後とくく左ふ

これバを畏れそて内うけりて聖日
つき又ツ附内役五人おろろあまは神
さま村役人法きそくあつはしおた
りらら母傳前も殿山あつておを
付らまはらある村名も伊神さま又殿
あまのて款倉光少左衛門江戸西の
久保あてそくへは神妙あはし
りこれ右倉光少左衛門自あ役所へ
江戸所を江川條安房も方より引
換しあおるりあ所あはひてあ仕
まわらせ付らまはは統あはし
右少左衛門あくあ名つくはづくあ
そのあう伝多のん伯父又神はあ
傳あまあはりあるりあ守は勅功
ああつてあ仕あ場のああひつく
あまはあはあその用あはあま

と申はさればこゝに實加るべき所を
かゝる仕向をせそのせりおのり
ゆりゆり意の所をわらふひ中
を歌家初め一十してぞかくり
る母倉光山小治部俊常別
代官伊奈備前守一
ゆき一みあき一づみ付江戶所を
小條安房守殿より倉光山小治部

樂の世續とあらし上りまき網
めてうちあひよかを及ゆ
回分千人上下是後二十余人於合
百人めれざる人教とありこれ
とわここころハ貞享元年七月
に戸とあてたを一日ハ
ろはる郡代を所へ付られを
備前守及人おれと法より

兼てあつらひねきし軍内(軍)の
由仕(由)の場(場)をど(ど)用(用)意(意)し(し)多(多)り
あり

語中暗、仇討、う合(合)り(り)奇(奇)妙(妙)々(々)々
又曰ク四郎(四郎)未(未)夫(夫)、善(善)二(二)敵(敵)小(小)次(次)郎(郎)ノ
西(西)の(の)際(際)に(に)可(可)力(力)ナ(ナ)ク

仇討天貞東流繪實記卷之九拾

仇討天貞東流繪實記卷之三拾

目録

一 常列(常)口(口)子(子)那(那)布(布)出(出)村(村)事(事)以(以)て(て)仇(仇)討(討)の(の)事(事)

一 大(大)和(和)長(長)九(九)郎(郎)倉(倉)光(光)十(十)次(次)郎(郎)善(善)提(提)を(を)吊(吊)し(し)事(事)

国中へは書きたる。新皇と見えし
南無阿彌陀佛

近世四戦記書

甲越武鑑奉納揚弓場用品

廿之神明境内

貸

海の中へは... 西の... 舟... 舟... 舟...

仇討天貞東洋繪巻實記巻之三拾

常列は方那布去村... 仇討

の事

去程は常列は方那布去村名を寄

を史山用の後とれ... 所代友

所へは... 山指紙束

り... 畏... 山指紙束

仕度して山役所へおらる如母山代官
伊奈備前も殿様をせ渡され
りるそのおらる候とて天和二年
正月江戸所を以て山條安房も
おさけ佛討ししとて致ひし事
佛討の候ハ山割林示し付以先さし
おしたぐもおらる殿様のぶんとおけ
おきし如母も南二月廿八日に江戸西の

久保もおらるしとて一安房もおらる
おらるおさけしゆも付右倉光中次所
候ハきしこのおらる先河内ておらる
おさるおらるしとてこれおらる山條安房
おはるおらるおらるおらるおらる
おらるおらるしとて山江御後山江を
へ下されおらる御手おらるしとておらる
おらるおらるおらるおらる十九日

とみづざらみ
ち村境みおひて仇討役まじきむ
おのせ極みされればは命をまは
をト知んそ一一家一門のいのちのみ
しるめらちよでよろこぶ事やぎしりき
その用意をきしりあむららむとら
みとでみ日限の前目みおむむ村
の後み八百は方の竹矢来とひ
まろし一車のみこみそは侍前も夜の

横波かり西のふみは江戸よりの
検使のさどきいふと南へおとす
矢来成流もあよびららしてでみその
日みおひりららぬ別限ハ正又時と
さぶらあむら村役人は命をまはと
ゆるみおむのかわみおむら居らり
侍前も夜江戸由検使かりの
法役人衆をまらひりれを

江戸市を東と南の本戸より傳前町
どの内産物のまじりきられね
こころさましるる傳討の儀ハ先年
あつせおされりゆりかこころ割禁
これゆれども山次師とさるゆり
傳前町とてひきされりゆり
尖もくさくさゆり老中よりゆり
一づありゆりゆり傳討とハねま

屋敷に江戸本例の儀ハゆりゆり
あつせおされりゆり
まじりきられね
こころさましるる傳討の儀ハ先年
あつせおされりゆりかこころ割禁
これゆれども山次師とさるゆり
傳前町とてひきされりゆり
尖もくさくさゆり老中よりゆり
一づありゆりゆり傳討とハねま

首^み実^{じつ}授^{じゆ}ゆつて江戸^{えど}へ出^で指^さ系^{けい}たる
ころを^をくそ^そり^りル^るの^の授^{じゆ}使^しの^の元^{もと}
さ^さの^のり^りる^るは^はを^をま^まが^がし^しハ^ハ小^{せう}次^じ帝^{てい}が^が死^し
と^とん^んを^を知^ちい^いま^まで^でる^るり^りい^いづ^づま^まも^も自^じ
能^{のう}た^たゆ^ゆい^いと^と海^{かい}ま^まを^をせ^せめ^めと^とこ^こへ
ら^ら進^{しん}り^りる^る傳^{でん}前^{ぜん}も^も及^{およ}ぶ^ぶた^たゆ^ゆい^いその
少^{せう}換^{かん}授^{じゆ}秘^ひあ^あひ^ひて^ては^はん^んご^ごく^くなり^りそ^そ
小^{せう}次^じ帝^{てい}と^と目^めご^ごり^りあ^あゆ^ゆせ^せめ^めい^い

ン^ンま^まハ^ハ帝^{てい}を^をあ^あが^がね^ねが^がい^いる^るん^んト^トも
ン^ンあ^あく^くま^まく^くは^はん^んが^が進^{しん}か^か仁^{にん}包^{ほう}の
感^{かん}ト^トて^てあ^あが^がい^いの^の身^みり^りを^をら^らし^しめ^めい^い
は^はの^のり^りが^がく^くく^く切^{せつ}後^ごせ^せよ^よ寛^{かん}仁^{にん}
た^たな^なた^たわ^わく^くせ^せり^りま^まハ^ハ小^{せう}次^じ帝^{てい}ハ^ハ大^{だい}地^ち
ハ^ハ平^{へい}伏^{ふく}し^して^てゆ^ゆあ^ある^るト^トも^も中^{ちゆう}の^のゆ^ゆげ^げん^ん
ハ^ハ帝^{てい}を^をま^まハ^ハあ^あら^らひ^ひの^のゆ^ゆら^らの^のる^る
仁^{にん}義^ぎの^の人^{にん}なり^りい^いゆ^ゆふ^ふハ^ハは^はん^んが^がん^ん

まさけの仁公をかんぜらまゝ永代
常刀の知らんをうまひりいざ
放泊荒又席一萬を皆弟かひ
又人兄弟の義ともむはびその家
しゆみ解系業しては百の喜家
うしこれらハはこみ目か
どもありけり

大和屋長丸席倉光小次席
と弟一書

甲子七月廿六日倉光小次席
江戸の
しちよなる礼
おひて徹つ
不吾の名を
永く人口

くーめとあうむる是はこよ勅告
懲り悪ののめとあもいづくさ
のうらこよ芝口二丁目大和長
とて水油膏費一と有とくうら
町人らりらるか已らあり一はぬと
告系へかよひけひせんをぬかす
一合もどりて抱女か子のう
そが片づけらまどもかろ有とく

ちろ所家のうめりゆいよこのぞ
差へいさくもことなり雷次
とくよものかひかくり居らるか
だんく身のうへははあり又
あ川端へ後りまよふかの抱女
とあ一せんうははまて次ま
あや一はひぎうせんまうありく
と月日と送りらるか次ま

後小次郎一かせることありしころこの
長九郎一かせことありしころ
小次郎一震る事とひしころ
親長はゆつがゆめのこむしそ
長九郎一か妻の山川はゆりしそ
百金をおししてこれをもち夫婦
りりともめ小次郎せしことありて
け美口二丁目大ひるる油屋をお

させ敏弟昌一してくふしり終ハ
このまうしし小次郎一か一事の
管事めしてその恩今みなが
くゆりあくるあし小次郎一か要
事一のころげておれししてけいび
め位めあひておれしころ
親長九郎一ゆたよびちひめこれ
とらげきこの震る事とひしころ

河うらなき、舟のうへへあつた
長九郎一もたぬていかにしりも
りき、因^{ちり}章^{せう}一もして物^{もの}らあへん
せめてものあつたあつた
風^{ふう}雨^うの夜^よとまもちてととり千
位^いみくしり少^すなる年^{ねん}かくびとぬは
ことりしきぐみは川^{がわ}なる善^{ぜん}提^{だい}不^ふ
淨^{じやう}寺^じはありあり逃^{にげ}言^{げん}佛^{ぶつ}事^じ

して河とせんとあつたあつた
解^いめその名^なとのこしり
此の本は長九郎大馬鹿く

本
本屋金五八五

淨心寺ニテ此碑アリヤ否ヤ

伏討天貞東海繪實記卷之三拾大尾
南無阿弥陀仏

伏討天貞東海繪實記卷之三拾大尾

